

平成30年度

英国派遣交流事業報告書



平成30年11月15日(木)~11月22日(木)

北谷町教育委員会



目次



🌐	教育長あいさつ				P1
🌐	平成30年度英国派遣事業経過報告				P3
🌐	第18回北谷町中学生英語スピーチ・ カンバセーションコンテスト開催要項等				P4
🌐	平成30年度北谷町英国派遣交流及び視察研修について				P9
🌐	英国派遣団報告書				
	生徒	北谷中学校	3年	目取真 百花	P12
	〃	北谷中学校	3年	石川 日茉里	
	〃	北谷中学校	3年	田仲 花鈴	
	〃	北谷中学校	3年	大城 誉	
	〃	桑江中学校	2年	儀間 穂香	
	〃	桑江中学校	2年	宮平 莉吏	
	引率	北谷中学校	教諭	金城 真利子	P19
	引率	桑江中学校	教諭	晨原 陽介	P23
🌐	英国派遣交流写真集				P29
🌐	第18回北谷町中学生英語スピーチコンテスト発表文				P36
🌐	平成30年度英国訪問団受入れ【交流の様子】				P48



教育長あいさつ

教育長 川上 啓一

北谷町英国派遣交流事業は、平成13年から始まり、今年で18回目を迎えました。これまで、交流団をイギリス西部のディーン・マグナ・スクールへ派遣し、授業参加やホームステイを通じた交流を深めてきました。今年度の派遣においても、伝統的なイギリスの建造物や環境のすばらしさ、ホームステイでの温かい受け入れ、ディーン・マグナ・スクールの生徒が熱心に授業を受ける態度に感銘を受け、気持ちがあれば言葉の壁は乗り越えられることや、自分の意見をはっきり言うことの大切さ、更なる英語学習に対する意欲や海外留学の決意、将来は英語を使って人の役に立つ仕事に就きたいと夢を語る生徒もあり、多くの感動と新たな夢や希望が芽生えたことが伺えました。

北谷町教育委員会では、このような国際交流事業を通して、異文化理解や相互理解を促進し、異なる文化を持つ人々と協調して生きる資質や能力を育むとともに、英国へ派遣する生徒の選考として「中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテスト」を開催し、町立中学生全体の英語力の向上を図っています。これからの国際社会を担う児童生徒にとって、国際共通語としての英語を駆使する能力は、重要な基礎的能力であることから、小学校段階からの国際理解教育を推進し、中学校への学びの連続性を踏まえつつ、コミュニケーション手段としての実践的英語力の育成に努めています。今後もより一層充実した国際交流の在り方と英語教育を推進し、国際化に対応する人材の育成に励んでいく所存です。

結びになりますが、今年度も北谷町の派遣団を温かく迎えてくださったディーン・マグナ・スクールの校長先生はじめ、ご尽力いただいた先生方に、心から感謝申し上げます、私の挨拶といたします。

Acknowledgement

It has been 18 years since the British Delegation Program started in 2001. Since that time, the Chatan Board of Education has established a very successful international link with Dene Magna School in Western England. The students of Dene Magna and Chatan have fostered the intercultural understanding and cross-cultural communication through homestays, attending the host students' classes, and introducing aspects of their own culture. The experiences have had a very positive impact on Chatan students, and have inspired them to think more globally in the future. They were overwhelmed by England's historical buildings, natural environment, and warm welcomes from host families, and also they were impressed by the great attitude of Dene Magna's students and staff in classes. Many students say both similarities and differences between society in Japan and in England, and about the importance of making your opinions clear in western culture.

Nowadays, English communication has become a very important skill as globalization continues to accelerate. The Chatan Board of Education aims to develop a positive attitude for communicating in English, as well as intercultural understanding through such programs and the annual English Speech & Conversation Contest. We will continue to promote English education to raise students' English ability as a whole.

In conclusion, I would like to express my heartfelt appreciation to Dene Magna Headmaster, Mr. Stephen Brady, Global Education Consultancy Ms. Liz, Ms. Kathryn and the teachers, students, and parents of Dene Magna School for their support and the warm welcome. I look forward to ever growing friendship for many more years to come.

Keiichi Kawakami

平成 30 年度 英国派遣事業経過報告

1 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテストまでの取り組み

- 7 月 18 日(水) カンバセーションに関するルール確認と練習
- 9 月 3 日(月) 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテスト実施

2 英国派遣までの取り組み

- 10 月 1 日(月) 英国派遣事前学習会①
引率者紹介、派遣チーム開き、アイスブレイク、今後の日程確認
- 10 月 12 日(金) 英国派遣事前学習会②
プロフィール作成、挨拶担当決め、挨拶文作り
パッキング、入国カード記入の仕方、入国審査の仕方
- 10 月 17 日(水) 英国派遣事前学習会③
北谷町の歴史、インディアンオーク号についての研修
文化係松原さんより説明
- 10 月 24 日(木) 英国派遣事前学習会④
緊急時日本への電話の仕方、現地のお金について、文化習慣の違いについて
受入先での自己紹介、学校紹介の PP 作成
- 10 月 30 日(火) 英国派遣事前学習会⑤
北谷・沖縄・日本について英語で紹介してみよう
ホームステイ英会話表現、フレーズ練習、自己紹介
学校生活紹介プレゼン発表練習、出しもの(三線・歌)の練習。
- 11 月 7 日(水) 英国派遣事前学習会⑥
ホームステイ英会話表現、フレーズ練習、自己紹介
学校生活紹介プレゼン発表練習、派遣後の報告書の書き方、しおりの確認
- 11 月 9 日(金) **出発式：町役場 1 階 レセプションホール**
最終確認(訪問スケジュール、持ち物、保険証券の確認等)
- 11 月 15 日(木) ○出発 那覇空港
- 11 月 22 日(木) ○帰沖 那覇空港
- 12 月 5 日(水) **英国派遣交流報告会：町役場 1 階 レセプションホール**

第18回北谷町中学生英語スピーチ・カンパセーションコンテスト開催要項

1 趣旨

今後の国際社会に対応するために、将来を担う児童生徒が積極的に世界の人々と交流ができる資質や能力の基礎を培うことが求められる。本町の人材育成の観点から、中学生の英語スピーチコンテスト等を開催し、町内中学生全体の英語力のアップと実践的コミュニケーション能力の向上を図る。

2 主催 北谷町教育委員会

3 日時 平成30年9月3日(月) 午後2時～午後5時 受付 午後1時30分～

4 場所 ちゃたんニライセンター（カナイホール）

5 出場者 北谷町立中学校代表10人（各中学校の代表者5人）
※学校代表については各校で選考会を開催し選出する。
※原則として、男女比を均等に選出することが望ましい。

6 出場資格 ・北谷町立中学校1～3学年の生徒。
・国際交流に積極的な生徒で、保護者の承認及び在学する学校長の推薦が得られる者
・北谷町が実施するハワイ短期留学派遣事業及び本事業へ未参加の者

〈留意点〉

また、家庭で英語を母国語として使用している生徒や、英語圏生活経験者及びこれに類似する生徒については大会の趣旨から対象としない。就学児年齢での（7歳以上）海外生活経験者、またはいかなる期間においても英語を主として授業を行なう学校へ通学していた生徒は対象外となる。

7 参加者

中学校	北谷中	生徒:45人程度	職員:5人(校長・教頭含む)
	桑江中	生徒:45人程度	職員:5人(校長・教頭含む)
町教育委員会	教育委員(4人)、教育長、教育次長、各課長		
町長部局	町長・副町長、町議会議員		
町内各団体	PTA関係、自治会、町子連		
一般町民	出場者の家族等、一般町民		

8 スピーチ及びカンパセーションについて

(1) スピーチについて

① 文章内容：学校生活や将来の夢などに関する中学生らしいテーマで、中学生が使用する単語や文法、文章を使用する。

② 発表時間：2分30秒以上3分以内

(2) カンパセーションについて

① 内容：学校生活や日常的な活動に関する1つのトピックに基づき、英語で質問や会話をする。トピックは事前（約3週間前）に学校を通して通知する。

② 方法：司会（大人）を中心に、出場生徒同一の席でトピックの内容について英語で会話を行う。生徒は上記に関する簡単で日常的な英会話と積極的な発言が求められる。

③ 時間：30分以内

9 審査 英語に関する学識者5人により協議して審査する。

10 表彰 最優秀賞1人、優秀賞5人、優良賞4人

11 派遣 最優秀賞、優秀賞の計6人はイギリス派遣を内定する。

第18回 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテストプログラム

日時 平成30年9月3日(月)午後2時～

場所 ちゃたんニライセンター1階カナイホール

1. 開会式

- (1) 主催者あいさつ 教育長職務代理者 新垣 道雄
(2) 激励のあいさつ 町長 野国 昌春

2. スピーチ・カンバセーションコンテスト

- (1) 趣旨説明及び審査委員紹介 (司会)
- (2) スピーチ
- | | | |
|---------|--------|---|
| 北谷中学校3年 | 田仲 花鈴 | 「True Friendship」本当の友達 |
| 桑江中学校3年 | 西尾 佳鈴 | 「What tennis has taught me」テニスが私に教えたこと |
| 北谷中学校3年 | 目取眞 百花 | 「Learning from Failures」失敗から学んだこと |
| 桑江中学校3年 | 長嶺 愛紗 | 「What I learned about relationships」人間関係について学んだこと |
| 北谷中学校3年 | 石川 日茉里 | 「The First Step Towards My Dream」私の夢への第一歩 |
| 桑江中学校3年 | 木村 来夏 | 「Never give up」絶対に諦めない |
| 北谷中学校3年 | 大城 誉 | 「My Dream」将来の夢 |
| 桑江中学校2年 | 宮平 莉吏 | 「The importance of my mother」母親の大切さ |
| 北谷中学校3年 | 福原 心南 | 「The Beautiful Waters of Okinawa」沖縄のきれいな海 |
| 桑江中学校2年 | 儀間 穂香 | 「Appreciation」感謝 |
- (3) カンバセーション //

— 休 憩 —

3. 平成29年度英国派遣参加者報告

発表者：球陽高等学校1年 金良 明香里 読谷高等学校1年 島袋 夕
球陽高等学校1年 末吉 敦喜 桑江中学校3年 垣花 梨音

4. プレゼンテーション

発表者： 仲村 七海 (平成26年度 北谷町英国交流事業派遣者)

- ・平成28年度グローバル・タ`育成海外短期研修事業「アメリカ高等教育体験研修」モンタナ州
- ・平成29年度「国際性に富む人材育成留学事業」アメリカ派遣

5. 表彰式

- (1) 成績発表及び講評 審査員長 中頭教育事務所 指導主事 桃原 清文
(2) 表彰 北谷町教育委員会 教育長職務代理者 新垣 道雄
(3) 閉会のことば 北谷町教育委員会 学校教育課長 原田 利明

第18回 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテスト審査員

1. 審査員構成

英語の堪能な5人で審査員を構成する。なお、審査員長は審査の統括、講評を行う。

2. 審査員氏名

審査員長	沖縄県教育庁中頭教育事務所 指導主事	桃原 清文
審査員	沖縄県立球陽高等学校 英語教諭	大城 喜一
審査員	沖縄県立球陽高等学校 ALT 講師	ジェニー リー
審査員	沖縄県立北谷高等学校 英語教諭	仲里 涼子
審査員	沖縄県立美里高等学校 ALT 講師 (北谷高等学校兼任)	ニコラス シリング

3. カンバセーション司会

北谷町立浜川小学校 英語指導助手 ジャネール リンダ ボイジン

4. 審査結果

最優秀賞 (1名)

北谷中学校 3年 目取眞 百花 「Learning from Failures」失敗から学んだこと

優秀賞 (3名)

北谷中学校 3年 石川 日茉里 「The First Step Towards My Dream」私の夢への第一歩

北谷中学校 3年 田仲 花鈴 「True Friendship」本当の友達

北谷中学校 3年 大城 誉 「My Dream」将来の夢

桑江中学校 2年 儀間 穂香 「Appreciation」感謝

桑江中学校 2年 宮平 莉吏 「The importance of my mother」母親の大切さ



主張発表を行った10名 上段左から

木村来夏さん、長嶺愛紗さん、西尾佳鈴さん、福原心南さん

田仲花鈴さん、大城誉さん、目取眞百花さん、石川日茉里さん、儀間穂香さん、宮平莉吏さん

平成30年度 北谷町中学生英語スピーチ・ カンバセーションコンテストの様子



**Hobbies?
Favorite things to do?**





審査員長



ドキドキの
結果発表待ち...



おめでとう~!



前年度派遣者の
報告もありました♪



平成26年度派遣者の
仲村 七海さん
後輩たちへエールを
送りました★



"You become good at what you like doing!"
好きこそものの上手なれ!

英国派遣交流及び視察研修

1 英国訪問のねらい

- (1) 北谷町の歴史と伝統を尊重し、次代を担う国際性豊かな人材育成を図るために、外国の文化や習を見聞し、本町の発展に寄与する。
- (2) 英国の中等学校と交流を行い、本町の学校教育と生徒の学習活動等に関する取組に資する。
- (3) 英国の中等学校生徒との交流を深めることで、将来の希望と抱負を持ち、自己を高める機会とする。

2 実施期日、目的地、訪問先等

- (1) 実施期日 平成 30 年 11 月 15 日(木)～11月 22 日(木)
- (2) 目的地 デーン・マグナスクール(Dene Magna School)、
グロスターシャー州 ミッチェルデーン
- (3) 主な訪問先 デーン・マグナスクール(Dene Magna School)

3 英国訪問団氏名

引率	桑江中学校	教諭	晨原 陽介				
	北谷中学校	教諭	金城 真利子				
中学生	北谷中学校	3年	目取真 百花	桑江中学校	2年	儀間 穂香	
	北谷中学校	3年	石川 日菜里	桑江中学校	2年	宮平 莉吏	
	北谷中学校	3年	田仲 花鈴				
	北谷中学校	3年	大城 誉				

4 緊急連絡先

北谷町教育委員会 電話:098-982-7705
FAX:098-936-3491

北谷町立北谷中学校 電話:098-936-3929
FAX:098-936-0171

北谷町立桑江中学校 電話:098-936-2244
FAX:098-936-0172

5 交流校 デーン・マグナ・スクールの連絡先

住所: Abenhall, Mitcheldean, Gloucestershire GL17 0DU
電話: 010-44-1594-542370 FAX: 010-44-1594-544862
校長: Mr. Stephen Brady(スティーブン ブレイディ)
国際交流担当: レイチェル先生・トム先生

6 現地旅行社連絡先

会社名：JALPACK INTERNATIONAL(EUROP)B.V. 時間：9:00-17:30（現地時間）
住所：4TH FLOOR, STANDON HOUSE, 21 MANSELL STREET, LONDON E1 8AA, U.K.
電話：020-7264-5193 FAX：020-7264-5195
緊急連絡先：07968-629-937

*** 在英国日本大使館・総領事館 ***

受付時間 9:30-16:30

住所：101-104 Picadilly London W1J 7JT

電話：010-44-2074-656500

FAX:010-44-2074-919348

7 英国訪問の心得

(1) 基本的な心構え

- ① 健康・安全に十分気を付けましょう。
- ② 身なり服装は、きちんとする。言動にも気を配り、マナーを守りましょう。
- ③ 忘れ物がないように前日までに必ず準備しておきましょう。
- ④ 見学時間は厳守し、礼儀正しく、いつでもどこでも集合時刻、集合場所を確認してから行動しましょう。
- ⑤ 英国の学校との楽しい交流ができるように、よく事前学習をしておきましょう。
- ⑥ 毎日の様子が記録できるようにメモ帳を持っておきましょう。
- ⑦ 貴重品は、大切に保管しましょう。
- ⑧ 就寝時間、起床時間を守りましょう。

(2) 保健的な心得

- ① 衣服の調節に気を配りましょう。
- ② 寝冷え、暖房での乾燥に気を付けましょう。
- ③ 偏食しないでなんでも食べるようにしましょう。
- ④ 飲み過ぎや食べ過ぎに気を付けましょう。
- ⑤ 水道水などの生水や、生ものは避けましょう。
- ⑥ 薬は普段使用しているものを持っていきましょう。

(3) 乗り物酔いについて

- ① 寝不足をさける。
- ② 乗り物酔いの先入観を捨てる。友達とおしゃべりしたりして気分転換を図る。
- ③ 空腹の状態で乗り物に乗らない。
- ④ 近くを見ないで、遠くの景色を見るようにする。
- ⑤ 気分が悪くなりかけたら寝る。

(4) 非常時の心得

- ① いかなる場合でも異常が発生したときには、先生または添乗員に速やかに連絡する。
- ② 慌てず、騒がず、落ち着いて添乗員及び引率者の指示に従って行動する。

スケジュール

11/15(木)	ヒースロー空港着～フォレストオブディーンへ
午後 15:10	那覇～羽田 JAL900 07:40-09:50(2h10mins) 羽田～ロンドン JAL043 09:00-15:55(12h30mins) ロンドン ヒースロー空港着 交流校バスにてホテルへ ディーンマグナ近くのホテルにて夕食&宿泊 The Royal Ross on Wye 住所 Royal Parade, Ross-on-Wye HR9 5H2,UK 電話 +44 1989 565105
11/16(金)	ディーン・マグナ・スクール
午前 午後	ホテルで朝食後学校へ (DM バス送迎) 1 図書室にて歓迎、授業参加 2 学校のカフェテリアでランチ 3 授業参加 ホストと顔合わせ ●ホームステイ 1 日目
11/17(土)	校外活動
全日	1 カーディフ観光・ラグビー観戦 (DMS 交流メンバー含め 2 2 名) ●ホームステイ 2 日目
11/18(日)	ロンドン市内
全日	1 マイクロバスにてロンドン市内へ。視察研修 (DMS 交流メンバー・引率者・ホストファミリー保護者含む) ●ホームステイ 3 日目
11/19(月)	ディーン・マグナ・スクール
全日	1 小学校訪問 (確認中) 2 学校のカフェテリアでランチ 3 ホスト生徒と授業参加 ●ホームステイ 4 日目
11/20(火)	ディーン・マグナ・スクール
午前 午後	1 授業参加 2 学校のカフェテリアでランチ 3 大聖堂見学へ (フォグワーツ) ハリーポッターの撮影場所にもなったところ。 4 クリスマスマーケット見学 5 レストランにてお別れ会ディナー ●ホームステイ 5 日目
11/21(水)	ヒースロー空港へ
午前 午後	1 ホスト生徒と共に視察 (場所は調整中) 2 空港へ 搭乗手続き
11/22(木)	沖縄到着
午後	ロンドン～羽田 JAL044 19:00-15:55(11h55mins) 羽田～那覇 JAL923 17:10-19:55(2h45mins)

英国派遣を終えて

北谷中 3 年 目取眞百花 北谷中 3 年 石川日菜里
北谷中 3 年 田仲花鈴 北谷中 3 年 大城誉
桑江中 2 年 儀間穂香 桑江中 2 年 宮平莉吏

私たちは 11 月 15 日から 22 日までの 8 日間、北谷町の代表としてイギリスの地で多くの経験をし、学んでまいりました。

出発の日

この日は朝 6 時に空港に集合しました。早い時間だったにも関わらず、教育委員会の方々がお見送りに来て下さり、とても嬉しかったです。

わくわくした気持ちで那覇空港を出発し、約 15 時間のロングフライトを終えてイギリスに着いたときは、今までに見たことのない景色に感動し、とても興奮していました。ヒースロー空港には、校長先生とトム先生が迎えに来て下さり、3 時間半も運転をしてもらい、ホテルに着きました。



フォレスト・オブ・ディーン

フォレスト・オブ・ディーンはとても静かで、牛や馬、羊がたくさんいる森の多い自然いっぱいの町でした。ホームステイ先のお家の 2 階から見える景色も美しく、空気がとてもきれいで気持ちよかったです。毎朝、お家の中から外の景色が見えなくなるほどの濃い霧がかかっていて、とても寒かったです。

印象に残っている場所は、夕食の買い物に行ったスーパーです。とても大きな店内には、食べ物やちょっとした日用品だけでなく、おもちゃや洋服、CD や DVD など、日本のスーパーでは売られていないものもたくさんあり、びっくりしました。

ディーンマグナスクール

学校全体の様子は、とても明るいと感じました。集合場所がカフェテリアになったり、数学専門の棟があったりして、卓球台は中にも外にもありました。美術室に行く途中にも売店があって、そこで朝ご飯を食べたりもしました。

生徒の様子は、とても生き生きしていて、フレンドリーで授業を楽しんでいるように見えました。

みんな静かに授業を受けていて、うるさくなくても静かになって言うとなんか静かになっていて、わたしたちの学校は見習わないといけないなと思いました。

フランス語やスペイン語の授業があったので難しかったです。

私は、国語の授業が楽しかったです。日本にも、国語の授業はありますが、私が体験した授業は、自分たちで食べ物を作り売る授業のミーティングでした。



催し物ではエイサーを披露し、誉さんの三線がとても好評で、終わっても大きな拍手をくれ嬉しかったです。また、ディーンマグナスchoolの生徒達も催し物をしてくれて嬉しかったです。

放課後はみんなでコンビニへ行き、お菓子とジュースを買って協会の後ろにある公園へアナベルのお友達と行きました。とても楽しかったです。

わたしたちの学校とディーンマグナスchoolの違いは、みんな授業中におしゃべりせずにハキハキと手を挙げていて、私達も見習わないといけないと思いました。

ロンドン市内観光

ホームステイ3日目の日曜日は、ホストファミリーの皆とディーンマグナスchoolの先生と一緒にマイクロバスに乗ってロンドン市内を観光しました。イギリスの首都にあるロンドンの街は都会で、歴史を感じさせてくれる建物や、モダンなデザインの現代的な建物がたくさんありました。ロンドンでは、有名な観光スポットが狭い範囲に集中していて、徒歩で移動することができました。徒歩でいけないところでも、ロンドンで多く普及している地下鉄やバスを利用すると移動できるので、とても便利だと思いました。



ロンドンの中心部から徒歩10分位の場所にあるチャイナタウンという街では、至る所に中華料理店や日本料理店などのいろいろな国のレストランがあり、イギリスでも、世界各国の料理を味わうことができる素晴らしい街でした。私がホストファミリーと一緒に中華料理店で食べた、チキンの上にレモンのソースがたくさんかかっている中華料理は、酸味があり、とても酸っぱかったが美味しかったです。



私がロンドンで特に印象に残っている場所は、中心部にある、ナショナル・ギャラリーという美術館です。この美術館では、ものすごい数の絵画を所蔵していて、その中には、ゴッホやピカソ、レオナルド・ダ・ヴィンチなどの有名な絵画の作品もありました。それに、維持費を寄付で賄っており、無料で入場することができるので、美術鑑賞にもってこいの場所だと思いました。あの有名なゴッホの作品、“ひまわり”を間近で見たときは、とても感動しました。

ホームステイ

●大城誉

僕のホストファミリーは Weiss 家でした。Weiss 家は、お父さん、お母さん、男兄弟 4 人の 6 人家族でみんなとても明るく、優しい方々でした。英国の方々との交流では言語が違いコミュニケーションを図ることがとても大変でした。しかし今自分が話せる英語で積極的にたくさん現地の人と話すことで、これまで触れることのできなかつた日本と違う、イギリスの文化・習慣を知ることができました。



僕が印象に残っているのは、ホストファミリーとロンドン市内を観光しているとき、たくさんの人々が赤信号や横断歩道ではない所でも普通に道を渡っていて、僕のホストファミリーも当たり前のように赤信号を渡っていたことです。このことについてネットで調べてみると、イギリスでは横断歩道を安全な方法で渡ることは強制されていなくて、信号無視が違法ではなく、自己責任で渡っていいことが分

かりました。日本では当たり前の交通規制を守ることは国が違うとルールそのものが異なっていて、厳しさや習慣に差があることを実感しました。

そして、僕がイギリスに行く前に不安だったイギリスの食べ物は、現地に行って実際にフィッシュアンドチップス、週末に食べることで有名な“English Breakfast”、スコーンなどを食べてみると本当に美味しかったです。しかし、毎食出される主食の大きいジャガイモに、なぜかよく出てくる山盛りのグリーンピースには苦戦しました。それでも、イギリスの食べ物はほとんど食べることができ、本当に美味しかったです。僕はホテルやホストファミリーの家で出されたトマトスープが特に気に入りました。

1 週間と短いホームステイでしたが、ホストファミリーと過ごした時間は僕にとって特別なものとなりました。1 週間 Weiss 家で過ごせて良かったです。



●田仲花鈴

私がホームステイをしたスミス家は、お父さん、お母さん、ホストパートナーのアラヤ、



そして 3 人の妹の 6 人家族でした。ディグビーという犬と 2 匹のモルモットを飼っていて、とてもかわいかったです。ホストファミリーは、みんなとても仲が良く、優しい家族で、私が英語を理解できないときは、1 番下の 6 歳の妹までもが簡単な英語に直して話してくれ、英語で会話することへの不安も消え、ホームステイ中たくさんおしゃべりをしました。

また、お土産に持って行ったけん玉も毎日楽しそうにやっていて、イギリスのおもちゃや遊びも教えてくれ、私もとても楽しかったです。

私のホストファミリーは、お風呂は数日に1度入るのが当たり前だったり、すごい量のご飯を短い時間で食べ終わったりするので日本との生活習慣の違いに驚きました。しかし、日本と違うイギリスの生活習慣に実際にふれることができ、とてもいい経験になりました。

1週間という短い時間でしたが、スミス家にホームステイをすることができ、彼らとたくさん思い出を作れたこと、いろいろなイギリスの生活習慣にふれられたことを嬉しく思います。

●儀間穂香

私のホストファミリーのゲーツ家は、両親とジェス、弟の4人家族で、とても元気な家族でした。ジェスの両親はとても優しく、いつも私のことを気にかけてくれて、「何か飲みたいものはある？」とか、「寒くない？」とか聞いてくれました。ジェスは、家でも学校でも私のわからないことを聞いたら、わかりやすい英語で丁寧に教えてくれて、一緒に遊べて楽しかったです。お土産でもっていった折り紙で一緒に鶴を作って、とても喜んでくれてよかったです。



●宮平莉吏

私のホストファミリーのモトソン家はお母さんお父さんアナベル、お姉さんとニワトリ11匹と、犬2匹の大家族でした。モトソン家では、ペットも家族として考えているようで、ニワトリ1匹ずつに名前がありました。アナベルの両親は学校の先生ということもあり、日本語にすごく興味を示していてとても嬉しかったです。



アナベルは、笑顔が印象的でとても活発的な女の子でした。また、アナベルのお姉ちゃんの名前が私の名前と同じりりだったのでとてもびっくりしました。

モトソン家の人たちに英語が通じないことがあったりしましたが、みんな理解しようとしてくれてとても嬉しかったです。

●石川日菜里

私のホストファミリーのキーン家は、お父さん、お母さん、弟のウィリアム、エリーの4人で、とても優しく明るい家族でした。話をするときは私が理解できるようにゆっくり話してくれたのでとても聞き取りやすく、楽しい会話にすることができ、とても嬉しかったです。

ホームステイでの印象深い思い出は、ホストパートナーのエリーに連れて行ってもらっ

たお父さんの農場です。夜に行ったのですが、イチゴなどの苗木やクリスマスツリーは月明かりに照らされ、とても幻想的だったのが印象深かったです。

そして初日にキーン家へお土産をあげたときは、特に日本のお菓子の興味を持ち、すぐに食べていました。とてもおいしいと言っていたので私も嬉しかったです。また、エリーが日本語に興味があると言っていたので漢字練習帳をあげたらとても喜んで早速始めていました。そんなエリーを見て、とても勉強熱心だなと感心し、私も見習おうと思いました。

1週間という時間でしたが、キーン家に家族として受け入れてもらえて良かったです。



●目取眞百花

私のホストファミリーはベネット家でした。お父さん、お母さん、ティーガン、妹の4人と犬のミスティーでとても明るく優しい家庭でした。



お父さんとお母さんが2人で作ってくれる夕食は毎日とてもおいしかったです。そして私がおにぎりのみそ汁を作って食べてもらおうとおいしいと言ってくれました。

印象に残っていることは、ティーガンと妹のケイトリンとお紙やけん玉、ジェンガ、羊のゲームをして遊んだことです。けん玉は私もティーガンもケイトリンも上手くできませんでしたが、お父さんが初めてや

ったのに結構上手でした。

ベネット家の皆は私にたくさん日本のことについて質問して、私の英語を理解しようとしてくれて本当に嬉しかったです。

英国派遣の体験から得たこと

この英国派遣を通して「わからなくてもしっかり自分で答える力」や「積極的に話す勇氣」など何事にも挑戦する力を身に付けることができました。そして私は、イギリスの地でもう一つの家族、最高の友達に巡り合うことができました。この貴重な体験を終えた今も私はホストパートナーであったエリーとメッセージの交換をしています。このつながりを大切に、これからも英語力の向上を目指し、この経験を将来へ生かしていきたいです。

感謝の気持ち

ホストファミリーのお父さん、お母さんは学校の送り迎えをしてくれたり、食事を作ってくれたり、洗濯をしてくれたり、スーパーに連れて行ってってくれたりしました。

また、パートナーとはいつも一緒に会話をしたり、遊んだり、観光をしたり、イギリス

のことについて教えてくれたりしました。一週間一緒に過ごしていく中でとてもたくさんの思い出を作ってくれて本当に感謝しています。



この体験をふまえて、将来の希望や抱負

●田仲花鈴

私はこの体験を通して、自信をもってコミュニケーションをとることの大切さや、日本とは違う生活習慣、文化を学び、自分自身の視野を広げることができました。これらのことを忘れずに、さらに英語力を向上させ、次は高校生での長期留学に挑戦し、いろいろな国の生活習慣や文化に触れ、視野をさらに広げていきたいです。

また、英語は海外に行ったときや英語を使う職業に就かなければ使う機会が少ないと思っていましたが、北谷町内には外国人の在住者や観光客がたくさんいるので、日ごろ生活している中でも今まで以上に積極的に英語を使っていきたいと思いました。そして、私たちにこのような体験をさせて下さった皆さんにいつか恩返しができるよう、これからもいろいろなことに挑戦し、一生懸命取り組み、頑張っていきたいです。

●儀間穂香

私はこの英国派遣を通して、英語の大切さや世界は広いということを感じることができました。これからはもっと英語を勉強し、次に海外に行くときには、今回よりももっといいコミュニケーションをとれるようにしたいです。そしてこの経験を活かしながら、これから他の国にも行って、自分の考え方を広げていき、将来の夢に少しでも近づけるようにしていきたいです。

●宮平莉吏

この経験をふまえて、自分が常識だと思っていたことが、広い世界に出ると常識ではないということがわかり、視野がとても広がりました。また、言語が通じない相手でも、真剣に理解しようとした、ホストファミリーの皆様方やディーンマグナスクールの先生や生徒のみなさんに感謝しています。この経験をふまえて、これからの英語への取り組み方について考えさせられました。

また、将来は海外と沖縄の架け橋になれるような仕事をしたいなと思いました。

この経験をさせて下さった、北谷町教育委員会の皆様やディーンマグナスクールの先生方そして、保護者の皆様にとっても感謝しています。



●大城誉

僕はこの体験を通して、自分自身の視野を広げることができました。イギリスで過ごした一週間では、話していることが理解できなかつたり、自分の英語が通じないことがあつたりと大変なこともありました。

しかし、この一週間で多くの人と出会い、友達になり、これまで知ることのできなかつた海外の習慣、文化を学ぶことができました。今回北谷の代表としてイギリスへ行けた事、一週間 Weiss 家で過ごせたことをとても嬉しく思います。この経験を生かして、これからも英語力の向上を目指し、自分の目標に向かって頑張っていきたいです。

●石川日菜里

今回の英国派遣では、なかなか言いたいことが伝わらず、初めは緊張して困ったことがたくさんありました。ですが日がたつにつれて自分から話ができるようになりました。また、ホストファミリーや周りの方々も私の話を理解しようと耳を傾けてくださり、イギリスの方々の温かい心に触れることができました。

そしてもっと英語やその他の国の言語を勉強し、誰とでもたくさん話ができるようになりたいです。またそのスキルを活かし、積極的にいろいろなことに挑戦したいです。

将来の夢へ一歩でも大きく近づけるよう頑張りたいと思います。

●目取眞百花

この体験をふまえて、私は視野が広がり、自信とさらに英語を学ぶ意欲を持つことができました。また、将来仕事でも英語を使いたいと思うようになりました。高校でも県費の留学事業に挑戦するなどして、これからもどんどん英語を上達させていきたいです。そして将来の夢に向かって頑張っていきます。

私たちを支えてくれた両親、家族、このような素晴らしい機会を与えて下さった北谷町教育委員会の皆さま、指導して下さった先生方、ありがとうございました。



Thank you...

1. はじめに

11月15日(水)から11月22日(水)までの8日間、北谷町英国派遣交流および視察研修に参加させていただきました。去年に引き続き2回目の訪問ということもあり、去年からお世話になっている Dene Magna School (以下 DMS) の先生方や今回初めてお会いする人たちなど本当に多くの人と交流を持つことができました。今回は私も初のホームステイ体験と



いう貴重な体験をさせていただきました。また何より感謝したいのは、子どもたちが全員ケガや病気でなくこの研修に参加できたということです。今まで一緒に学習してきた子どもたちが、英語を使ってコミュニケーションをとる姿と人間的にも強くたくましく成長する姿を間近で実感することができ、言葉にできない嬉しさでいっぱいです。これからもより一層子どもたちの異文化理解と英語能力の向上へのサポートをしていきたいと存じます。

2. 1人の教師として学んだこと・収穫できたこと

①自ら考え積極的に行動する生徒を育てる取り組み

i) 授業、ノート

DMS の授業では、教師と生徒のインタラクションを通して、生徒が自分の意見を述べて進んでいく授業がほとんどです。教師はあまり答えやポイントを明示せず、ヒントを与えすぎないことで、生徒に自分で考えさせる工夫をしています。

ノートにメモするもの自分の考えや意見が中心です。授業中の話し合いで理解した学習事項を、自



分の言葉(時には絵やイラストを使用して)でまとめていきます。自分でまとめたノートをもとにポスターを作成し、教師はそれを見て評価していきます。ポスターを作成している際も、教師が「最後に必ず自分の考えを書いてね」と言っていたことから、とにかく“自分

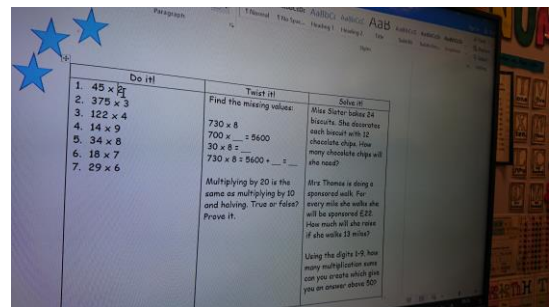


の考え”や“意見”を表現することを大切にしており、この徹底で自分の考えをまとめる習慣につながっているようです。

ii) 小学校での取り組み

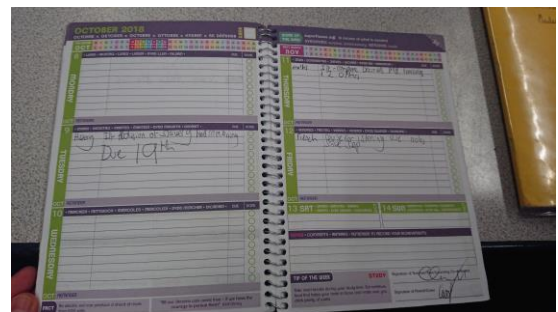
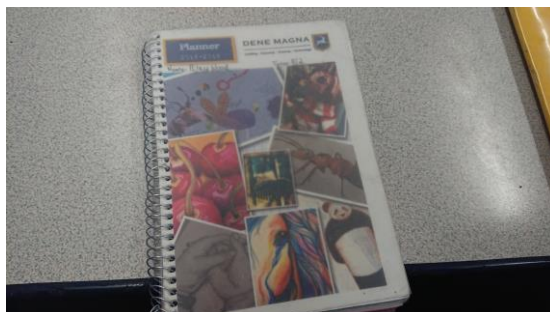
去年もそうですが、イギリスの学校に来て最も驚いたのは学習規律の徹底です。私語をする生徒はほとんどなく、教師の質問に答える生徒は静かに手を挙げ、教師に指名されるまで待ちます。この習慣は小学校から徹底されているようでした。（余談ですが、休み時間になると皆何かから解放されたように校庭で遊び回る様子を見て、「やっぱり普通の小学生なんだ。」と少し安心しました。）

小学校での授業は、朝の集中力が高い時間に低学年はフォニックス、中学年・高学年は計算問題を行うなど学習時間の工夫を行っていました。計算問題は難易度別にプリントが用意されており、生徒は自分が挑戦するプリントを自分で選択するという形式でした。教師はそのサポートを行います。自己選択をすることで、積極性が生まれ、次はより難しい問題へ取り組みたいという学習意欲の向上につながっていると考えます。



iii) 連絡帳

授業で出た宿題は学校の連絡帳にメモして、自分の課題を自己管理している様子でした。また、週に1度は保護者とチューターの先生（イギリスでは学級担任ではなくチューターという出席等を担当する教師が割り当てられています）のサインを貰って、家庭と学校の連携を取っている様子が分かりました。北谷中学校でも今年から「やりとり帳」を導入し、生徒の自己管理能力を育成しようと試みています。家庭との連携を加えることでより一層生徒自身が意識して自分のやるべきことに責任を持つようになるのではないかと感じました。



②生徒一人一人に寄り添う支援体制と互いに認め合うことのできる雰囲気づくり

i) 教師の前向きな声掛け

DMS の先生方に共通していることは、生徒への前向きな声掛けがとても多いということです。私がイギリスに滞在している間、“brilliant”、“lovely”、“exactly”、“that’s right!” などというほめ言葉を数えきれないくらい耳にしました。この誉め言葉は授業中だけではありません。週末、ロンドン旅行から帰ってきた際、夜寒い中保護者を待つ生徒に対しても、「お母さんすぐ来るだろうね。」「今向かっていると思うよ。」等、前向きな言葉をずっと生徒にかけていました。この教師のほめ言葉や前向きな声掛けが生徒の自己肯定感を高め、自信へとつながり、何事にも積極的に取り組むことのできる姿勢へとつながっているのだと考えます。私も生徒の良い所をしっかりと取り上げ、認め褒めることで、生徒の自信や自己肯定感を高められるよう意識していきたいです。

ii) Smile Program

前回の派遣と大きく交流内容が変わったと感じたのは、1 番始めに生徒同士が協力して工作を行うという構成的グループエンカウターの活動が入ったことです。北谷町でも Smile Program といって生徒同士が相互理解をするための活動がありますが、DMS にもこのような活動があると初めて知りました。活動を通して協力し合うことで、子どもたちは一気に仲良くなっていました。



iii) 校内掲示物

DMS のいたるところに、掲示物が貼られています。学校で Photo Contest の写真を掲示したり、沖縄留学の様子も大きく掲示していました。生徒の活躍や学習の様子を掲示することで、自分たちが頑張ってきたことを振り返り、自信につながると感じました。



iv) A school dog -Tom

今年から DMS には school dog のトム君が新しく加わりました。学校に所属する犬で、生徒たちを中心に散歩に連れて行ってもらったり面倒を見てもらうそうです。（放課後は Steven 校長先生の家で過ごします。）校長先生曰く、「心などに課題を抱え、授業に参加することのできない生徒が DMS にもいます。そんな子でもトムと関わったり、世話をすることで皆から褒められ、認められることで自己存在感を持つことができる」のだそうです。



③沖繩の子供たちの成長

8日間の英国派遣事業を通して、子どもたちの成長を間近で感じることができ、一人の教師としてこれ以上ない幸せでした。最初は、初めてのことばかりで奮っていたり、授業で自ら手を挙げるのがなかなかできない子もいました。しかしこの1週間で自分から積極的に「あれがやりたい！」と意思を伝えたり、わからないことを尋ねたりすることができるようになりました。本当に一人一人の良い所がたくさん出て、「外国の文化を学びたい！」という好奇心で溢れていました。また同時に、日本・沖縄文化を伝え、知ってもらおうことで異文化交流の大切さ・楽しさを知って貰えたのではないかと思います。

短期間ながらも、自分の知っている英語を最大限に活用して生活することによって、英語力だけでなく、人生において大切なコミュニケーション能力などの生きる力を得て、大きく成長することができたのではないかと思います。

3. 最後に

今回の英国派遣事業を通して、改めて人と人とのつながりの深さに感動しました。DMSのBrady校長先生、Harry先生、Tom先生、Rachel先生、スタッフの皆さま、ホストファミリーの皆さまの心暖かいおもてなしに心から感謝します。来年夏沖縄を訪れる際には、私が受けた以上に、沖縄・日本文化を楽しめるようおもてなしをしたいと思います。

また今回英国派遣に尽力して下さった北谷町教育委員会の方々、生徒たち、それを支える保護者の皆さま、関わって下さった全ての人々の思いによってこの派遣事業が継続発展されていると感じました。今回このような事業に2回も参加させていただいたことに大変感謝し、これまで築いてきた絆が今以上に深まるよう、今後とも協力させていただけたらと願っています。





平成30年度 英国派遣報告書

北谷町立桑江中学校
教諭 晨原 陽介

2 度目の英国派遣引率となります。そこで、今回は、昨年とは異なる体験を中心に、派遣団全体の体験を報告します。

1. 英国派遣 1 日目 11 月 15 日 (木)

(1) イギリスへ出発

偶然にも昨年と同日の 11 月 15 日、朝 6 時に那覇空港に集合しました。早朝にも関わらず、多くの保護者や教育委員会の方々が見送りに来てくれました。その後、羽田空港へ移動し、出国審査後、イギリスへ向かいました。



(2) イギリスに到着



約 15 時間のフライト後、ロンドンのヒースロー空港に到着しました。入国審査後、空港に迎えに来てくれた Dene Magna School (以後 DMS) の校長 Mr. Stephen Brady (以後スティーブ先生) と、今回の担当者の一人 Mr. Tom Derrick (以後トム先生) の送迎で 3 時間程かけて初日のホテル The Royal Ross on Wye に到着しました。ホテルでは、昨年の担当者 Ms. Harry Dixon-Gough 先生 (以後ハリー先生) と、今年の担当者 Ms. Rachel Thomas (以後レイチェル先生) に出迎えてもらいました。



2. 英国派遣 2 日目 11 月 16 日 (金)

(1) DMS 初登校

① 出合い

イギリスで初めての朝です。ホテルで朝食後、DMS スタッフの送迎で出発です。DMS へ初登校し、ホストの生徒たちと初めて対面しました。ちょうどこの日は、Children in Need というイギリスのチャリティーの日だったため、その一環として DMS の生徒や先生たちは私服で登校していました。対面した後、生徒たちは集会でプレゼンを行いました。浴衣を着て、三線の演奏に合わせて堂々と踊りました。



② アイスブレイク

トム先生が中心になって、生徒たちと、ホストの生徒たちはグループ活動を実施しました。ビッグベンやロンドンアイ、タワーブリッジなどロンドンの有名な建物を、スパゲッティとマッシュマロを用いて再現するというもので、各グループ工夫を凝らしていました。この活動を通して、生徒たちは互いに打ち解けて一気に仲良くなりました。本町のスマイルプログラムに共通したところがあり、生徒も先生たちもみんな笑顔になりました。



(2) 授業参加

① 書道体験

沖縄から持って行った書道の道具を用いて、美術の授業で DMS の生徒たちに書道を体験してもらいました。I love art を日本語で書きたいという DMS の生徒たちに応えて、誉さんのお手本を基に、皆で「美術大好き」と書きました。



② スクールツアー

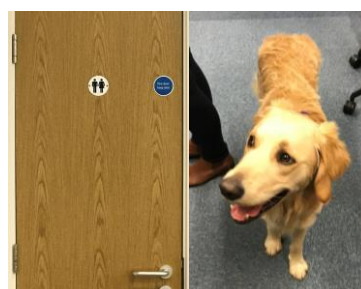


Head Students の Macie と Aaron の案内で施設や授業を見学して回りました。DMS は、生徒が授業ごとに教室を移動する仕組みです。昨年同様に DMS の生徒たちの学習規律のすばらしさに感心しました。話を集中して聞く、手を挙げて積極的に意見を述べる、真剣に考える、必要な情報は自発的にメモを取る、そして、もちろん眠っている生徒はゼロです。

③授業のめあて

DMS では、各授業の目標、または、「めあて」は、WALT: We Are Learning To ～と表現します。つまり、「私たちは～ができるようになる。」です。また、去年は気が付きませんでした、サブテーマのようなもので、WILF: What I'm Looking For 「私たちが求めるもの」というものもありました。

④新しく導入されたシステム、スクールドッグです。みんなに可愛がられると同時にみんなを癒してくれていました。



⑤同じく新しく導入されたシステム、男女共有の個室トイレです。生徒用は全てこの仕様です。

⑥フランス語のレッスン

レイチェル先生の担当のフランス語の授業に参加しました。外国語を指導するという共通点があり、非常に興味深かったです。

(3) ホームステイ

昨年と違うことの一つに、私と真利子先生は、それぞれ DMS の先生の自宅にホームステイをしました。私は、校長のスティーブ先生宅へ、真利子先生はハリー先生宅へ行きました。



私は、スティーブ先生の住む街 Tewkesbury を一緒に探索し、夕食にカレーをごちそうになりました。奥さんにお



土産で渡したガラス製の風鈴を、4 人の娘たちが手に取って Wow と感激するたびに、"It's mine!!" と半分本気で死守しているところが微笑ましかったです。食事中は、スクールドッグの



トムが何度もテーブルの下に潜り込んだり、娘さんたちが休みなくずっとおしゃべりしたりして、とても暖かくて幸せな家庭だと感じました。「生徒たちもホームステイを楽しんでいるのだろうか」と、その様子

を思い浮かべながら、私たちもホームステイを楽しみました。ホームステイする際のお土産は、日本の日用品が意外と喜ばれるかもしれません。花の香の蒸気が出るアイマスクや、衣服用のデオドラントなどが思いのほか喜ばれました。また、抹茶味のチョコレートや、黒砂糖、日本茶のティーバッグなども喜ばれました。



3. 英国派遣 3 日目 11月17日(土) Wales ツアー

(1) 首都 Cardiff

England の隣の国 Wales の首都 Cardiff へ行きました。生徒たちも職員たちもクリスマスマーケットやショッピングセンターで買い物や食事を楽しみました。

(2) ラグビー観戦

Wales vs Tonga の国際マッチを観戦しました。初めて見たラグビーから、私は大切な精神を学びました。フェアプレーとリスペクトの精神です。あんなに激しく体をぶつけ合っているのに、負傷者は出ず、一度も乱闘騒ぎは起きず、また、誰一人として審判にクレームやアピールをする選手はいませんでした。ルールを守り、タフにでもフェアにプレーし、トライを決めても、過度に喜ぶことはない。



判定には潔く従う。そんなラグビーが発祥の地であるイギリスはなんて Lovely な国だと改めて感激しました。

場内のスクリーンには TRY/CAIS、CONVERSION/TROCIAD と、英語とウェールズ語の両方でラグビー用語が表示されていました。2か国語以上の言語が使用されるという日本では味わえないような体験ができました。

4. 英国派遣 4 日目 11月18日(日) London ツアー



ホストの生徒たち、そのファミリーを含め総勢およそ 50 名でロンドンツアーへ出かけました。2 時間 30 分のバス旅行でロンドンに到着しました。ちなみに長距離用バスのことをイギリスでは coach と呼んでいます。四輪大型馬車、指導者などを意味するコーチと同じ語です。

ロンドンでは、レイチェル先生とトム先生に案内し



てもらい、Westminster 寺院、Big Ben など見て回り、National Gallery に立ち寄りました。美術作品を見た後、そこでティータイムを楽しみました。街はクリスマスに向けて賑わっていました。途中で買い物などをしながら、Piccadilly Circus、Covent



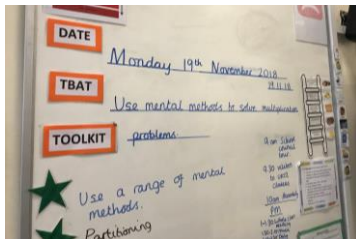
garden などを見て回りました。気温は4℃でしたが、空は晴れていて、快適なロンドンでした。生徒たちもホストの生徒や家族たちと一緒に楽しんでいました。

5. 英国派遣 5 日目 11月19日(月)

(1) DMS 職員朝会に参加

初めて、DMS の職員朝会に参加しました。今週の予定の確認などを行いました。

(2) 小学校訪問



Forest View Primary School に訪問しました。5 歳から 11 歳までの子どもたちが通っています。

①5 歳児の英語の授業を見学しました。子供たちはフォニックスを学んでいました。フォニックスとは、音と文字の規則の学習です。



例えば ch の文字は、くしゃみの

ときの achoo /ətʃuː/ の音だと、言葉と動きを連動させて記憶させるという工夫をしながら学習していました。

②「めあて」などの提示方法です。TBAT は To Be Able To 『～することができる』の略です。板書が筆記体です。日本では現在筆記体を教えていません。イギリスの授業では小学校から筆記体を使っていることを考えると、コミュニケーション上必要だと感じました。



③生徒たちはプレゼンを行いました。レイチェル先生とトム先生も準備を手伝ってくれました。子どもたちの歌や踊りを見て、その後は中庭で子供たちと交流しました。

(3) DMS 授業見学

フランス語、宗教学、理科の授業を見学しました。フランス語の授業では、自己紹介のときの表現を学び、実践しました。宗教学では、これまでに学んだ各宗教における考え方について考察しとめる授業でした。理科の授業では、トム先生がヒツジの目を使って解剖を行っていました。苦手の生徒もいましたが、各ペアで一所懸命に取り組んでいました。

(4) 2020 年沖縄訪問メンバーとの交流
福笑いをを用いて交流しました。



(5) 2020 年沖縄訪問職員とディナー



昨年訪問したハリー先生と新しく訪問するジョン先生、真利子先生と私の4名で、ホテル近くのケバブレストランでディナーを楽しみました。生徒たちだけでなく、先生たちも交流することができるということが、この派遣事業の魅力です。

6. 英国派遣6日目 11月20日(火)

(1) 授業参加

①真利子先生と体育の授業に参加しました。サーブの説明、実践、指導、対戦というスムーズな流れの授業でした。私たちも一緒にバドミントンをプレーしました。

②音楽の授業を見学しました。007のテーマ曲を各パートで自主練、全員集めて良い例と悪い例を聴き比べ、なぜ良いのか、なぜ悪いのか意見を引き出し、再度パート練習というスムーズな流れの授業でした。

(2) College 見学

今年新しく知ったことです。2019年の秋から開講するDMS用のカレッジを見学しました。昨年もお世話になったリス先生に案内して頂きました。16歳から18歳の生徒たちが通い、建築などの職業的な分野や、数学、理科など多岐にわたる学術的な分野を学ぶそうです。そこで、学んだ生徒たちは、その後University、つまり大学へと進学するとのことでした。



(3) スコーン作り体験

今年、新しく行った活動です。生徒たちは各ホストの生徒たちと協力してスコーン作りに挑戦しました。



(4) Gloucester ツアー



午後から、Gloucester という近くで最も大きな町へツアーに行きました。映画 Harry Potter の撮影で使われた Cathedral、大聖堂を見学しました。ウェストミンスター寺院以外で唯一戴冠式が行われたことでも有名な大聖堂です。今回は、新しく cloister (修道院などの中庭を回る廊下) という単語と fan vaulting (アーチ状の天井) を学びました。波止場では、クリスマスマーケットでチーズなどの買い物をし、



最後に DMS の生徒たちとレストランでお別れディナーをしました。

7. 英国派遣7日目 11月21日(水)

(1) 別れ

DMSの生徒たちとお別れの時が来ました。皆泣いていました。来年の7月に再開することを約束し、別れました。この一週間で一生ものの友情を培ったことでしょう。

(2) Bourton on the Water ツアー

綺麗な小川と石橋で有名な観光地へ行きました。現地で、あまりにも可愛いクリスマスショップがあったため、思わずみんなで入ってしまいました。小川と石橋を見て回った後、カフェでティータイム、そしてヒースロー空港へと向かいました。そして、レイチェル先生、トム先生ともお別れです。来年の7月に沖縄を訪問する際は、今回彼らから受けたおもてなしを何倍にもして返したいと思いました。



8. 11月22日(木) 帰国

出迎えてくれた保護者、北谷町教育委員会の皆さんの姿を見て、大きなトラブルなく無事に帰って来ることができたと、ほっと一安心しました。

最後に、今回は英国派遣という素晴らしい機会を与えてくれた北谷町教育委員会の方々、生徒の派遣を応援してくれた保護者の皆様、また、私たちが派遣されている間の学校の業務を担当していただいた北谷中・桑江中両校職員の皆様、今回の派遣事業に関わっていただいた全ての皆様に感謝します。生徒たちも私たち引率の職員も、今回の派遣で得た知識と経験と価値観を、北谷町の教育活動に還元していきたいと思います。また、DMS職員と培った友情を大切にしていきたいです。ありがとうございました。





出発式！



百花さんが代表で
挨拶してくれました！



北谷中の
校長先生
英語で
激励の挨拶♪



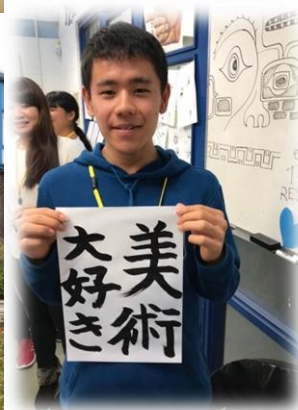
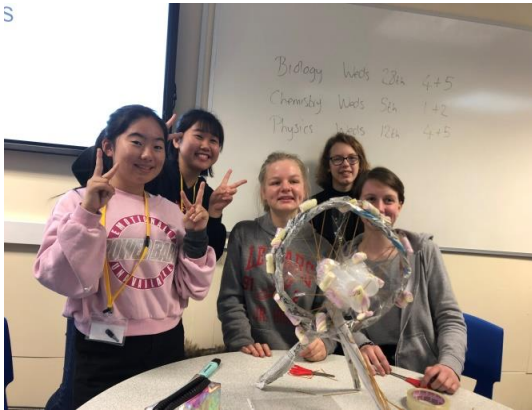
ヒーロー
空港に
到着っ！！



お腹いっぱい食べました🍷



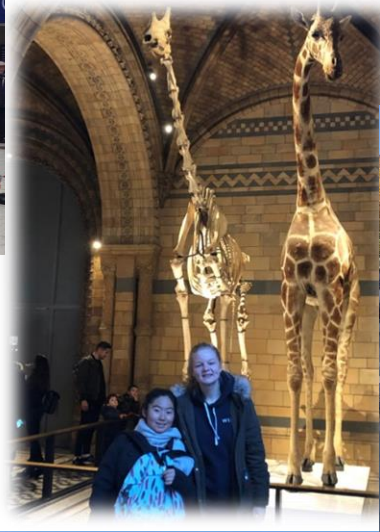
誉さんが三線を弾いてくれました🎵



実際に授業にも参加しました🌟



ラグビー観戦！👁️



London



telephone box
★ ★



小学校訪問も
しました♪



ホストファミリーの
みんなとスコーン
作りもしました!



クリスマス
マーケットにも
行きました☆



* 帰国報告会 *



7月に来沖した
メンバーとも
再会しました☆



また会いに行くねっ♪

Momoka &

Tegan Bennett Family

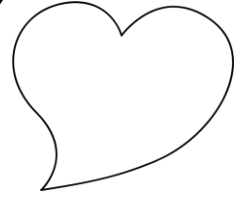


Himari &

Ellie Keene Family



Karin & Araya Smith Family



Homare & Joseph Weiss Family



Honoka & Jess Gates Family



Riri & Annabel Motson Family



平成30年度 スピーチ原稿



Learning from Failures

"Your effort today may not pay off, but a successful person never stops working." My mother told me this saying whenever I failed at the things I tried. I would always blame myself and I thought that my efforts would never be rewarded. But my mother's words left an impression on me and so I determined to be more confident and keep working towards my goals.

When I was in the fourth grade of elementary school I became interested in English. I started studying English and I enjoyed it. I even took the Eiken Examination. But in my first year at junior high school I started to feel that I wanted to learn English not only by reading and writing but also through speaking, so I started attending an English school. However, it was difficult for me to even understand what my American teacher was saying much less have a conversation with them.

It was my dream to participate in the Speech and Conversation contest, hosted by Chatan Town, but at the school audition I found I was unable to answer the teacher's English questions. I was so disappointed with myself and I began to think that perhaps I am not suited for speaking English. I was demoralized. That was when my mother told me the words I began this speech with. Her simple advice inspired me to make greater efforts.

Last year, I participated in the English Spelling Contest with my seniors. We spent a lot of time learning English vocabulary and practiced for the contest during our break times and summer vacation. The contest day came and we were rewarded for our effort with the first prize! It was one of the happiest moments of my life. I had applied to many auditions and failed, but because of my mother's good advice my efforts were finally successful. I think that my experience with failure helped me to succeed.

Of course, I am still making mistakes and failures but I have learned a lot from my experiences. Although I do not know the outcome of today's Speech and Conversation contest, I am sure that I will continue to work hard to always improve my English. I will not let failure discourage me.

失敗から学んだ事

「努力は必ずしも報われるとは限らないけど、成功する人は必ず努力をしている。」これは私が失敗ばかりしていた時に母が言った言葉です。この言葉を聞くまで、私は何か上手くいかないことがあると自分の努力が足りていないんだといつも落ち込んで自信を無くしていました。しかし、この言葉を聞いてから失敗しても前向きに考えることができるようになったのです。

小学4年生の時、私は英語に興味を持ち、英語の勉強を始めました。それから、英語をどんどん好きになっていき、英検も次々に挑戦していきました。そして中学1年生の時、英語を書いて読むだけでなく会話もできるようになりたいと思い、英会話教室に通い始めました。しかし、実際にアメリカ人の先生と話すとなると、まず英語を聞き取ることすら難しくて、自分の実力不足に気づかされたのです。

学校のスピーチ&カンバセーションコンテストのオーディションを受けても、全く選ばれませんでした。特に、英語の面接では全然できなくてとても落ち込みました。自分に英語は向いていないのではないかと感じるようにさえなりました。そんなときに私は母の言葉を聞いてハッとしました。そして成功するまで努力し続けようという気持ちになりました。

母の言葉に助けられた私は、英語スプリングコンテストに挑戦することにしました。チームメンバーの先輩2人と一緒に、夏休みや放課後の時間を利用してたくさん練習しました。その結果、私たちのチームは優勝したのです。それは私の人生の中で最も嬉しかった瞬間でした。たくさんのオーディションを受けたことや、そこで失敗したこと、母の言葉、そこから努力したこと全てがこの一つの成功につながったのです。

私もまだ失敗することはよくあります。しかし私はその失敗をバネにして、また新たに挑戦することの大切さを自分の経験から学びました。そして私は今このスピーチ&カンバセーションコンテストに挑戦しています。自分の好きな英語を活かすためにこれからも努力することをやめません。

The First Step Towards My Dream

I have a dream. Actually, I have many dreams. Among them, the one I would like to come true first is my dream to help children who cannot attend school.

I would like to support children who have been bullied or children who, for economic or domestic reasons cannot come to school. This is because I want to make even just one more child happy, and also because I myself have had a tough experience.

I was diagnosed with atopic eczema just after birth. Even though every day my whole body continuously itched and hurt, I did not get understanding from other people and so my daily life was particularly tough. There were times I had to miss school because of my eczema. On top of this, when my scars became noticeable my classmates would often say hurtful things to me. I was hurt not only by the pain of atopy but also the thoughtless words of those around me.

However, it is because I have known pain and suffering from a young age that I believe I am able to understand other people's heartache and suffering. I want children to be able to smile and have hopes and dreams. If children are struggling with stress, I want to listen to them and help cheer them up. Also, if there are children who are poor and hungry, or spending their days eating alone, then I want to help them.

In the future I would like to be a doctor, a pharmacist and a chef. I could use the skills from these occupations to help make children smile. As a doctor and pharmacist, I can help children who suffer from illness like me, and as a chef I can share the happiness you feel when you eat delicious food.

My dream - to make many children smile - is such a big project. But right now as a first step towards realizing my dream I always try to keep smiling in order to share my happiness with others, and I take care with my words and actions towards others. Also, I am working hard on my studies and my gymnastics. I want to be positive and try many things in order to make people feel happy.

Are you happy right now? Do you smile every day? As for me, I am working towards my dreams and I am happy every day.

私の夢への第一歩

私には夢があります。私の夢はたくさんあります。その中でも、私が最初に叶えたい夢は、学校に行けない子どもたちの助けになることです。

私はずっと、経済的な理由や家庭の理由で学校に行けない子どもたちや、いじめなどで傷ついた子どもたちの支えになってあげたいと思ってきました。なぜなら、子どもたちを一人でも多く幸せにしたいからです。また私自身、苦しい体験をしたことがあるからです。

私は、生まれてすぐにアトピー性皮膚炎と診断されました。毎日、体中のあちこちが「痛い、かゆい」の繰り返しなのに、他の人には中々理解してもらえず、本当に苦しい日々を送ってきました。またアトピーが原因で学校を休まなければならないこともありました。その上、傷跡が目立つようになると学校では同級生から嫌なこともたくさん言われました。自分ではどうしようもなく、この病気と付き合っていかなければならない中、アトピーの痛みだけでなく、周りからの心ない言葉にさらに傷付きました。

でも、そんな小さい頃から苦しみ、痛みを感じてきた私だからこそ、他人の心の痛み、不安な気持ちが分かるのだと思います。子どもは、夢や希望にあふれ、笑顔でいてほしいものです。もし、子どもたちが、ストレスを抱えているのなら、その思いを聞いてあげ、子どもたちの心を少しでも明るくしてあげたいと思います。また、貧しくてお腹を空かし、孤食の日々を過ごしている子どもたちがいたら救ってあげたいです。

私は、将来、医者、薬剤師、料理人になりたいという思いがあります。これらの仕事は、そのスキルを活かして、きっと子どもたちを笑顔にできるはずです。私のように、病気で苦しんでいる子を医療系の仕事に携わり助けてあげたり、また、美味しいものを食べた時に感じるような幸せを、みんなに分けてあげたいです。

私の夢、たくさん子どもたちを笑顔にすることは、大きなプロジェクトです。でも今、私は夢実現への第一歩として、人に幸せな気持ちを分けてあげられるように私自身が常に笑顔でいること、そして、自分が嫌な思いをした分、他の人たちにはそんな思いをさせない言動を心掛けています。また、勉強も新体操も全力で取り組んでいます。私自身、前向きな気持ちで何事にも挑戦していきたいと思っています。

皆さんは今幸せですか？毎日笑顔で過ごしていますか？私は夢に向かって毎日ハッピーです。

True Friendship

Do you have good friends that you can call best friends? I have a few. We became friends when we entered junior high school. I know some of them from elementary school, and others I met in junior high. Among them, there is one person that I never thought we would become friends, let alone best friends. Meeting her changed my way of thinking very much. I learned what it means to have a true friend.

About a month after entering junior high school, we had new seat assignments. We came to sit close to each other and started to talk. She was very funny, she was full of gags and always made everyone around her laugh. At the same time, she had a very strong sense of justice and she was self-assertive. She did not hesitate to share her thoughts and opinions. Therefore, I felt comfortable sharing mine as well.

When I was in elementary school, I was afraid of expressing my opinion because I didn't want my friends to think I was different and exclude me from the group. I spent my days trying to adapt to what my friends thought and what they did. At that time, I thought it was okay. However, after meeting my best friend in junior high school, I came to think the view I had was wrong. Friends should be able to share their thoughts no matter how different they think.

My friend is good at sharing and listening. Her point of view is quite different from others and mine and it gives me new perspectives. When I share my thoughts, she tries to respect them. We may not necessarily agree with each other all the time, but she at least tries to understand. Because of this, we are able to share opinions on even serious matters, and as a result have strengthened our bonds. She has taught me that it is natural for people to think differently. The important point is that we openly share our thoughts and listen to others with respect.

Through this experience, I have learned true friends are those who are able to honestly exchange thoughts and who can respect each other. It is not agreeing with each other blindly. I am very proud of having met someone like her who has given me new perspectives and has taught me what true friendship is.

本当の友達

みなさんには親友と呼べるほど仲の良い友だちはいますか？私には親友と呼べる友だちが数人います。その中には出身小学校も別で、中学生になったばかりの頃はこんなに仲良くなるなんて想像もしていなかった人がいます。そんな友だちと出会えたことで私の考え方は大きく変わり、本当の友達はどういうものを学ぶことができました。

中学生になって彼女と同じクラスになり、席が近かったこともあり、彼女とはすぐに仲良くなりました。彼女はギャグをして皆を笑わせてくれるとてもおもしろい人です。そしてとても強い正義感を持ち、自分の考えをしっかりと持っている人です。だから、彼女は自分の意見を私にしっかりと伝えてきてくれ、また私も彼女に自分の意見をしっかりと伝えることができました。

小学生の頃の私は、周りに仲間外れにされないように、友だちと一緒にいても自分の意見をしっかりと伝えませんでした。毎日友だちの意見や行動に合わせて過ごしていました。そのころは、「こうやって過ごしていることで友達とけんかをする必要もないからこれでいいんだ。」と思っていました。しかし中学生になって、私のその考えは間違っていたことに気づきました。たとえ考えが違って、互いに理解し合うことが友だちだと思えるようになったのです。

彼女はどんなことに関しても周りの人とは着目点が違って、いつも私にはない考え方や発想を与えてくれます。そして、私が意見を伝えるとしっかりと理解してくれます。だからこそ、私達はどんなに小さなことに関してもお互いに意見を伝え、しっかりと向き合うことができるようになりました。そんな彼女と一緒に過ごすことで、私は今までと違った新しい考えを持つことができるようになりました。自分の考えはしっかりと相手に伝えることと、相手の考えもしっかりと理解し尊重することが大切であるということです。それに気づいたことで、一人ひとり考え方は違っているのが当たり前、という当たり前のことを実感し、親友と呼べる本当に気の合う仲の良いことができました。

この経験を通して私は、本当の友達とは、どちらかの意見にお互いすぐに賛成するような仲のことではなく、お互いに自分の意見を伝え合い、相手の意見もしっかりと理解し向き合えるような仲のことを言うのだと学びました。私に新しい考え方を与えてくれ、本当の友達はどういうものを教えてくれた彼女とこれから先、お互いが離れたとしてもずっと親友でいたいのです。そんな彼女と出会えたことは私の誇りです。

My Dream

Do you have a definite idea about the occupation you would like to have in the future? An Internet report said that now in Japan there are about seventeen thousand kinds of occupations sorted in different branches like education, medical care, and so on.

My future dream is to be engaged in the field of international relations. That's because I think it will be great if I can use English which I love so much in my future job. My interest in English grew after I entered junior high school. I realized that through learning English we can also learn different cultures which helps to broaden and enrich our minds.

Last July I hosted a student from England for a week. Before I met him, I was wondering if I would be able to communicate in English well. At the same time, I told myself that it would be a great chance to improve my English skills.

The first day we met, I didn't know what to talk about and both of us were very nervous. Then I encouraged myself to talk about my family and Okinawa trying not to be worried so much about making mistakes. He also tried hard to understand my English and though it wasn't a fluent conversation, we could enjoy talking to each other. I realized that I was communicating in English without any help and I felt the joy of talking with foreign people for the first time! We spent time together at meals, shopping and playing games with my whole family. When we went to a sushi restaurant, I showed him how to use chopsticks. I remember that he seemed at a loss with all the Okinawan and Japanese dishes he had never seen before! Little by little we opened up to each other and were able to enjoy each moment we share. The last day at the airport, he hugged me tightly and said "Thank you for all you've done for me. See you again!"

Through this valuable experience I gained confidence in my English skills and my interest in it grew! English is one of the most enjoyable and wonderful things in my life. If we can speak English, we can make friends all around the world! Now I'm sure I would like a job where I can apply my knowledge of English in the future.

I recommend that you think about your future too. There are countless occupations in the world. You'll surely find one worthwhile.

将来の夢

皆さんは将来どのような仕事に就くか、具体的に決まっていますか？あるインターネットの記事によると、今日本にある職業の数はだいたい一万七千種類とされているそうです。ただ、仕事といっても世の中には、教育、医療、仕事など、さまざまな分野があります。

ぼくは将来、国際的な仕事に就きたいと思っています。なぜなら、ぼくは英語にとっても興味があり、とても好きなので将来この楽しい英語を使いたいと思っていますからです。

ぼくが英語に興味を持ち始めるようになったのは、中学生になってからです。英語という異なる言語を通して、異なる国の伝統や文化などを知ることは、私たちの視野を広げ、より豊かにすることが分かりました。

今年の7月にイギリスからの留学生を一週間ホストファミリーとして受け入れました。英国の生徒が来る前には英語を使って本当にコミュニケーションが取れるのか、とても不安でした。しかしこれはぼくの英語を上達させるチャンスと考えました。

受け入れ当日、最初はどのようなことを話してよいかわからず、双方とても緊張していました。しかし、間違えてもいいから、話す努力をしようと勇気を出して、家族や沖縄について話しました。彼も一生懸命理解しようと耳を傾けてくれ、流ちょうではないものの、楽しく会話をすることができました。その時英語を自力で使っている実感と、外国の人とコミュニケーションをとることがとても楽しいと感じるようになりました。

彼と食事をとったり、買い物をしたりゲームをしたりと家族皆で過ごしました。家族で寿司を食べに行ったときは、お箸の使い方を一生懸命教えました。珍しい沖縄料理や日本料理にはとまどっている様子でした。徐々に互いにうちとけることができ、とても楽しい時間を過ごしました。最終日、空港で彼が“一週間ありがとう、See you again！”と言って、最後にハグをしてくれました。

今回イギリスからの留学生と一緒に過ごし、今まで以上に英語に自信と興味を持てるようになりました。英語はとても楽しく、すばらしいものです。英語を話すことで、世界中に友達を作ることができます。僕は将来英語を使う仕事に就きたいと増々思うようになりました。

みなさんも自分の将来について考えてみてはどうですか。世の中には数えきれない数の職業があります。この中にはきっとあなたに合っている、楽しい仕事があるはずです。

Appreciation

Don't you think that your daily life is just normal and nothing special? I belong to a volleyball club at my school. After volleyball practice, I take four different lessons, which are English class, hip hop dance lessons, voice training, and piano lessons. I believe that taking these classes is good for my future and my parents never complain. They just let me take all these lessons. After school club activities, my mother picks me up and takes me to the lessons every day. I have had this routine every day since starting junior high school. I eat dinner and change clothes in the car. I thought I was the only one working hard every day, but one day my mother said, "I'm tired." Hearing those words I realized that she has made many sacrifices to make my dream come true. I also realized that if she did not take me to each class, I could not do anything by myself. Additionally, my father works very hard to make money to send me to these schools. I thought that paying tuition was only natural and nothing special. I never thought that my parents were really working so hard to make my dream come true.

I want you to realize that you cannot do anything without somebody's help. At school, our teachers teach us many things; friends play with us any time, and we eat food every day. But if all these ordinary things stopped suddenly, then you would realize that these ordinary things are a great help. We cannot live without somebody's help in our lives. Indeed, I have been helped by my parents in everything I want to do. Now, I know that it is very important to thank the people giving me help, and appreciate the things they have done for me, big or small.

I would like you to look back and think about how many ordinary things you were able to do, and how many people were involved in making your ordinary things become special. You should be thankful to have been in a comfortable atmosphere. I believe that if you know and understand appreciation, you will be able to overcome more difficulties. Although it is difficult to express my feelings of appreciation towards my parents, I am trying to do my best in whatever I do. If everyone always has appreciation in mind, we can share happiness. I would like to ask you, "Do you ever thank the people that helped you? How do you express your appreciation of their help?"

感謝

皆さんは、当たり前にある毎日が普通だと思いませんか。

私は、女子バレーボール部に所属しています。そして、英語、ダンス、ボイストレーニング、ピアノの4つの習い事をしています。全て私が、将来の夢のためにもやりたいと両親にお願いしてやらせてもらっています。週に4回、部活の練習が終わると母が学校に迎えに来てくれて、すぐに習い事に行きます。この生活を中学校に入ってからずっとしてきました。車の中でご飯を食べたり、着替えたり、最初は慣れなくてとても大変で、自分だけががんばっていると思っていました。しかしある日、母が一言「疲れた」というのを聞いて、自分の時間を削ってまで送迎をしている母の方が大変だということに気づいたのです。一年間、何も言わずに送迎してくれる毎日が当たり前だと感じていたのです。母が送迎をしてくれなければ、習い事に行くのは絶対に無理です。それに、父が働いてくれたお金で習い事をしています。私は、月謝を払ってくれることさえ当たり前だと感じていたのです。自分がやりたい事のために沢山働いてくれる両親がいる。そのありがたさに気づけなかったのです。

皆さんも考えてみて下さい。当たり前で学校で先生が勉強を教えたり、当たり前で友達と遊んだり、当たり前で美味しいご飯が食べられたり。当たり前と思っている事がいきなり当たり前じゃなくなったら、その時、今まで当たり前だった事がとてもありがたい事だったと感じるでしょう。「人は、一人では生きていけない。家族や友達など、沢山の人達に支えられて生きている。」私は本当にそう思いました。私一人では、何もする事は出来ない。だから、家族の手をかりて、自分のやりたい事をしています。それが、当たり前だと思わずに、一つ一つに感謝していく事が大切なんだと思いました。

皆さんも、今当たり前だと思っている事を、もう一度振り返ってみて下さい。そこには、どれだけの人が自分のために動いてくれているのか、どれだけの人が支えてくれているのか。今自分がいる環境がどれだけのありがたい事なのかを考えてみて下さい。どんな小さな事でも、当たり前、普通だと思わずに感謝することで、又自分自身ががんばる事ができ、そして成長する事が出来ると思います。両親を始め、私のために動いている方々に、すぐには声に出して「ありがとう」と言う事は出来ません。でもまずは、心の中で感謝する事から始め、努力している自分を見せる事により伝わると思います。そうする事により、一人一人が幸せを分かち合う事が出来るのではないのでしょうか。皆さんも、当たり前の事に感謝し、その感謝を伝えられていますか。

The importance of my mother

Are you in your rebellious phase now? I am a junior high school student going through my rebellious phase. I think since I became a junior high school student, I easily get stressed out about little things. Due to my challenging adolescent behavior, the relationship with my friends went downhill and I started complaining about everything to my mother. It caused a lot of trouble for people around me.

At that time, I said things to myself like, "What an easy job my mom has! I can do everything on my own! Why do I need my mom anyway?" Such a childish, selfish fool, and cruel I was! I didn't even realize how much my mother had supported me with her unconditional love until she went on a trip. One time, about a month before her trip, she showed me the pamphlet of the trip she was planning with her friends. With a big smile she said to me, "I'm going on a trip with my friends!" Then she made me promise to take care of the house. She added, "Just because I feel very uncomfortable leaving it all to you." The time came and my mother went on her trip. To keep my promise to my mother, I started waking up at six every day to fix lunch for my brother in high school. After that, I opened all the windows to circulate the air in the house before getting ready for school. I thought it was an easy job, but it wasn't! I usually go to cram school after school. It takes about an hour and a half to get there on foot, so I had to leave straight from my school. When I got home, it would be ten o'clock already. I fixed supper for my brother and myself, did the dishes, did the laundry, took a shower, and then did my homework. By the time I was done with my homework, it was almost one o'clock in the morning. I sometimes fell asleep during class at school. Because of the stress from all those things that I am not used to, I came down with a bad cold. That was the moment when I realized how much my mother had to work to raise two big kids. My mother worked and did all that every single day! I regretted what I had said about how easy my mother's job was. It was very hard for me, but it was a good learning experience at the same time. I will never underappreciate my mother again. I just cannot find a word to thank her enough for all she does.

Lastly, I would like to say this to my mother: Thank you for all you do! Thank you for trusting me! I love you mom!

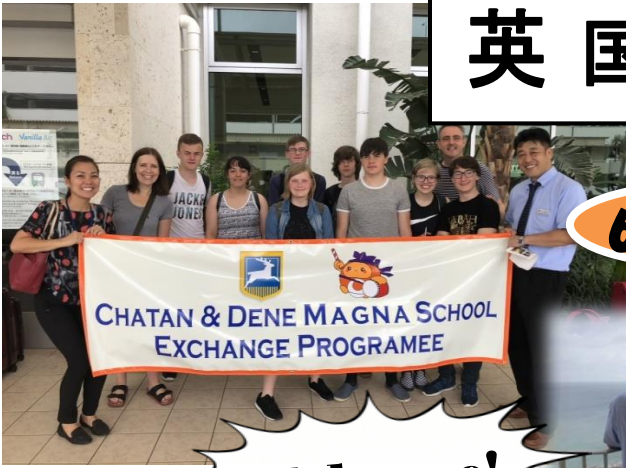
母親の大切さ

皆さんは今反抗期ですか。私は反抗期真っただ中の中学生です。私は、中学生になって小さなことでイライラするようになりました。そのせいで、友人関係も荒れてしまい、しまいにはお母さんに文句を言って困らせたり、いろいろな人に迷惑をかけていました。その頃の私はお母さんって楽でいいなあとか、私は一人で何でもできるからお母さんはいらないと思っていました。ですが、その考えはあまりにも子供な考えで、本当はずっと助けられているということに気づきました。

ある日お母さんが私に何かのパンフレットを見せてきました。そのパンフレットはお母さんの好きな海外旅行のパンフレットでした。お母さんはニコニコしながら、「一か月後に海外旅行に友達と行くことが決まったよ。」と私に嬉しそうに言ってきました。その時、お母さんは私に「お母さんがいない間、私が家事をする」という約束をさせました。なぜかと聞くと、お母さんは「あなたにあんな大変な家事を任せるのはちょっと不安だからよ。」と言っていました。その頃の私は、家事の大変さも知らなくて、むしろ簡単だと思っていました。だから、お母さんがいない間、何をして遊ぼうか、などをずっと考えていました。そして一か月が過ぎ、とうとうお母さんが海外旅行に行く日になりました。私は約束通り、お母さんのいない間、家の家事をしなければなりません。だから高校生のお弁当を作るために、私は朝の六時に起きてお兄ちゃんのお弁当を作ったり、部屋の空気の入替えなどをしたりして学校に行きました。お母さんはよく「高校は給食がないから、朝早く起きてお弁当を作るのが大変だ。」と言っていました。それまでの私は、そうなんだと思うくらいで、こんなに大変だとは思っていませんでした。でも実際早く起きてお弁当を作ったりしてみると、とても疲れてしまい、学校で授業中に眠ってしまったりしていました。私は塾に通っているので、学校が終わっても、一時間半歩いて塾に行かなければならず、昼寝をする時間などありませんでした。塾が終わって家に帰ると、もう夜の十時。それから晩ご飯を作り、お風呂に入り、食器を洗ったり、洗濯物をたたんだりしていたら、もう夜の12時。それから宿題などをしていたら、もう夜中の1時。そんな生活をしていると、私の体力は限界になり、風邪をひいてしまいました。その時、私は初めてお母さんの大変さや、私はいつも支えられているということに気づきました。いつもお母さんが当たり前のようにこなしていた家事がこんなに大変だということを知って、今まで、お母さんは楽そうでいいなあとか、私一人でもできるから、お母さんはいらないと思っていた自分が、今考えるととても子供みたいな考え方だったなと思います。今は、仕事しながら家事をして私たちを支えてくれるお母さんに頭が上がりません。お母さんが旅行に行って家にいなかった時の家事の大変さや、お母さんへの感謝の気持ちを忘れず、お母さんに親孝行をしていきたいと思います。

最後に、お母さんありがとう。私を信頼してくれてありがとう。

英国訪問団受入♪



6/30(土)



Welcome!



7/2(月)



町長
表敬



桑江中・北谷中訪問



7/3・4(火・水)



部活動体験、書道、みんなで給食♪色々やりました!





県内視察♪
おきなわワールド
ガンガラーの谷

7/5(木)



天気は☁☔
悪かったけどみんな
楽しんでました★

7/6(金)



送別会にちーたん登場！！



7/7(土)



Let's meet
again!



平成30年度 ディーン・マグナ・スクール訪問団来町スケジュール

1. 訪問者：引率者男性1名、女性1名、中学生7名（男4、女3）
2. 期間：平成30年6月30日（土）～7月7日（土）7泊
3. 宿泊：ザ・ビーチタワー沖縄、ホームステイ



日付	時間	内容	宿泊
6/30	土	15:45 那覇空港 到着	引率：ホテル 生徒：ホテル
		18:30 北谷町内で夕食	
7/1	日	9:00 ホテルにてホストファミリー対面式	引率：ホテル 生徒：ホームステイ
		各ホームステイ先へ(家族と過ごす)	
		PM 引率は観光へ	
7/2	月	AM 自宅待機	引率：ホテル 生徒：ホームステイ
		12:00 昼食(教育長・教育委員懇談会)	
		13:45 文化展示室視察	
		15:00 町長表敬	
		15:30 順次帰宅(町立学校全日休校のため)	
7/3	火	AM 桑江中学校訪問、給食	引率：ホテル 生徒：ホームステイ
		PM イオンモールライカム	
7/4	水	AM 北谷中学校訪問、給食	引率：ホテル 生徒：ホームステイ
		PM 放課後部活動体験	
7/5	木	全日 県内視察バスツアー	引率：ホテル 生徒：ホームステイ
		1. おきなわワールド 2. ガンガラーの谷	
7/6	金	8:45 町内文化視察(うちな一家)	引率：ホテル 生徒：ホームステイ
		10:30 浜川小学校訪問、給食	
		14:00 マリンスポーツ体験	
		18:00 送別会(北谷町役場レセプションホール)	
7/7	土	10:00 那覇市内へ 国際通り	
		13:00 昼食	
		16:45 那覇空港 発	

